

## 新生BizCafe(B2)の再開



サイエンス電気通信(株) 代表取締役社長

宮田 昌和

情報技術（IT）を核にした企業の交流拠点「札幌ビズカフェB2（ビズカフェ2）」が平成15年10月23日、札幌駅北口の伊藤110ビル2階に平成14年6月の閉鎖から約一年半を経て再開した。道内外からの重い期待を担い、高橋はるみ知事を始め産学官の関係者ら約二百五十人が集まり記念レセプションが催された。

多くのひとから期待され、祝賀された新生BizCafe についてB1の閉鎖、B2の再オープンにいたった経緯とB2再開へ込めた思いと熱意を宮田昌和ビズカフェ代表にうかがった。

### 新生BizCafe再開の背景

旧ビズカフェ（B1）は、2000年6月に2年間という期間限定でオープンした。B1では、「電子メールがどんなに便利でも、ビジネスの決定的瞬間のほとんどはオフラインで起こっている」という発想からIT、ベンチャー関係を中心とした起業支援、学習、交流の場を創ることが主な目的でした。

事業活動としては、地場IT企業群プレゼンテーション、異業種や学生との交流イベント、ビジネスコンテスト、起業家塾、広報誌の出版、グッズ開発などでした。

このB1が全国的に注目されることとなったのは、その成り立ちと活動が行政機関へは

頼らずに、民間の場所を使い全て民間の力で行ったことでした。当時このようなことは、全国的にも例がなく、B1の運営にあたっては、パワフルな企業家精神を持つ多くの人々の支持を受けることができました。そのため当初想定したよりも弾みがつきB1は、全国各地のITベンチャーキーマンたちとの団体設立、韓国企業人たちとのアジア交流イベント開催など数々の精力的な活動に展開されていきました。

そのため竹中、尾見両大臣をはじめ多くの視察者が訪れ、経産大臣賞を受賞するまでに至りました。そんな中で2年間という限定期間があつという間に過ぎ、平成14年4月にその役割を惜しまれながら閉鎖しました。

「これだけ知名度があつて利用率も高いのになぜ」「産官学で生まれた新しいつながりを次の段階に活かしたい」等の声を多くいただきました。

しかし、ビズカフェの遺伝子を受け継ぐ多くの団体や機関も生まれ、当初目指した機能については次第に環境が充実してきていることもあり、単なる復活ではなく主体的な進化を目指し、同時に原点に立ち返ることによ



セミナーの様子

て改めてビズカフェの存在意義を追求していきたいと考えました。

### 新生BizCafe求められるもの

そのような思いを持ちながら、一方で低迷する北海道経済、新規事業への創造意欲の低調が依然続く状況で、新生ビズカフェ「B2」は、北海道の再生のためにどういう役割があるのかという原点に戻り、次の3つの考え方「富国教育」「知産知商」「再生興業」の方向を持つことが重要であると、宮田さんは思っています。

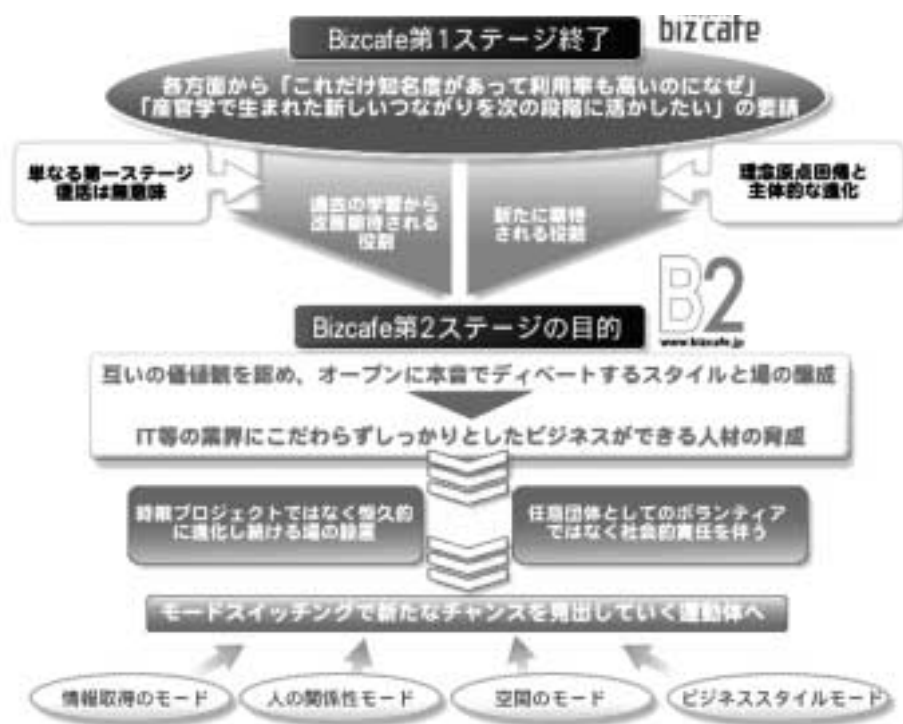
「富国教育」は、児童、学生からの再教育、起業家、企業内起業家の教育、育成です。学生においては、大学生のうちからビジネスへの挑戦をさせ、実学となる経験をもっと積み、社会人になってからも大学等へ進み、技術や知識を磨く新しい教育プログラムの充実を行って、北海道の経済を支える新しいビジネス・プレーヤーを発掘し育てることです。

「知産知商」は、大学、公務員の壁を越えたベンチャー支援プログラムの創出と実用化、知識社会におけるIT、バイオ、医学、工学、サービスなどの知識、技術をベースとしたソ

フト化ビジネス、ベンチャービジネスを明確な産業の柱に捉えることです。

「再生興業」は、ものづくり業などの第2次産業が弱いと言われている中、既存企業の経営体質改善、新規事業の推進、新産業の創造、既存企業自体のリフォームです。

以上の方向性を踏まえ、B2は業界や地域、世代、地位などを限定せずフラットに互いの価値観の差を認知し乗り越え、本音でオープンに議論できる土壌を創っていきたいと考えています。B1では大規模なイベント等を開催し、成果もあがっていますが、B2では、少人数による「私塾的」なセミナーやミーティングの開催を重視しており、B2の目的はたくさんの起業家を輩出するという「量」よりも、少数でもしっかりとしたビジネスを実践できる人を創出していく「質」を大切にしています。また、北海道基幹産業とベンチャー交流を実現するためのツールの一つとして(社)北海道IT推進協会とともにITブリッジ活動を考えており、例えば、食産業として農業、建設、観光、医療、福祉などの各分野をITを触媒にしてのつなぐためのニーズを探っており、今年から活動開始予定です。



新生BIZCAFE誕生への経緯- 2

## 新生BizCafeのこれからの事業

新生札幌ビズカフェは、もともと人や空間の魅力を感じるモード、ビジネススタイルのモード、人との付き合い方のモード、情報と出会う場所のモード、などさまざまなモードをスイッチすることで新たなチャンスを見出していく運動体です。数々の大胆で斬新なモードスイッチが、新たなビズカフェの第二ステージを構築し、そのスタイルが地域文化、ビジネス風土を育て、真の北海道活性化に貢献していきたいと考えています。

そのため、平成15年9月にNPOの申請を出して12月に認可をいただきました。

B2の具体的な事業領域と機能としては、ビズクロニクル事業、ビズセッション事業、ビズコミュニケーション事業、ビズインフォ事業があります。基本的には、B1での内容と変わらないが再オープンにあたり、先人達

の実践的な成果の伝承、組織、肩書き、社会的立場にとらわれず「個人」の魅力を追及しビズカフェマインドを持った人材の育成、人材回遊という内容が新しく強化された部分です。

また、先ほどの異業種のビジネスをつなぐ試みや、ニュービジネス協議会と平成16年から始める「アントレプレナー・オブ・ザ・イヤー・ジャパン」（いろいろな分野で新しいサービスや商品を開発したり、提供している会社の発掘、表彰活動）の北海道での開催を進めたり、地域から新しい活動を起こしてゆく運動を推進したいと思っています。

今後、この活動が「サッポロバレー」活性化の核として道内外をはじめ世界に広がる新生BizCafe運動体へと発展し次世代へ伝承されていくことを期待したい。

事業名	事業内容
<b>ビズクロニクル事業</b> 起業家・企業家を育成する私塾の企画・開催・運営	各界において地域社会および経済に貢献された企業家による私塾の運営事業
<b>ビズセッション事業</b> ビジネス関連知識習得研究会の企画・開催・運営	起業を目指す市民および中小企業を対象とする起業法務セミナーの実施 市民および中小企業を対象とする知的財産に関するセミナーの実施 地域における優位性のある技術やその付加価値を見極めるセミナーの実施
<b>ビズコミュニケーション事業</b> 国内・国際企業家による交流事業の企画・開催・運営	国内交流事業として、他都府県の任意団体およびNPOとの交流および研究会を実施 国際交流事業として、アジア圏、ヨーロッパ圏、アメリカ圏との交流および研究会の実施

## PROFILE

**宮田 昌和** (みやた まさとし) (本名：昌利)

1984年 (株)ウイン・インターナショナル設立代表取締役  
 1987年 帰国後、サンエス電気通信(株)企画開発室長  
 1988年 (株)サンエス・マネジメントシステムズ設立代表取締役  
 2000年 サンエス電気通信(株)代表取締役社長

NPO法人 札幌ビズカフェ 代表理事  
 北海道ニュービジネス協議会 理事  
 (社)北海道IT推進協会 副会長  
 IT-JAPAN推進会議 議長

北海道地域づくりアドバイザー  
 北海道ギガビット協同組合 理事長  
 釧路商工会議所 議員  
 釧路市新規事業等検討委員会 委員  
 釧路ビズカフェ 代表  
 釧路マルチメディア協会 副会長  
 釧路圏みちとくらしネットワークフォーラム 会長

HTB 「南平岸・未来道」(毎週土曜深夜) レギュラー出演中